

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770200192		
法人名	特定非営利活動法人菜の花		
事業所名	グループホーム菜の花・七尾		
所在地	七尾市矢田町参号184番2		
自己評価作成日	平成31年 1月 30日	評価結果市町村受理日	平成31年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	平成31年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>① 当事業所は一昨年・昨年と常勤職員2名の退職があり、新人職員を迎えた。又、法人本部は各GHの業務書類関係について、このところの職員気質の変化に合わせ、簡素化への大幅な見直しを行った結果、当事業所では書類関係の負担が少なくなり、多くの時間を現場ケアに振り向け出来るようになった。</p> <p>② H30年度の目標は、「認知症ケアの基本に立ち返る」であった。職員は時間的な余裕が生まれたこともあり、初心に帰って入居者さんに寄り添うケアが出来た。</p> <p>③ H31年度の目標は、「職員教育の徹底」とする。 (平均年齢 83.4 歳 / 要介護度 2.6)</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所と地域のつきあいは、矢田町ふれあいセンター(公民館)での毎月の法話や道路愛護デーの清掃活動、春祭りや秋祭りに子ども獅子舞を見に行ったり、左義長や、小学校や保育所の運動会を見に行ったりしている。毎日食材や日用品の買い出しに、利用者と一緒に近くの魚屋や花屋、スーパーに出かけている。近くの川べりを散歩したり、ドライブにもよく出かけている。訪問調査日にも近くのボランティアが訪れていた。</p> <p>食事を楽しむ支援として、献立はほとんど決めずに、買い物に行った後に、利用者は何を食べたいか聞いて、その日のメニューを決めている。利用者は、野菜の皮むき、切る、炒める、味見するなど4~5人の方が手伝ってくれる。この他茶碗を洗う人など、皆さんの役割を決めて、何らかの手伝いしてもらっている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小規模施設が得意とする濃やかな個別ケアの実践に努めていて、「うちのばあちゃんだったら、どうする？」を合言葉に、支援に迷った時は理念に立ち帰り、足元を見直し、管理者・全職員が心を一つにして努力した。良い成果が出たと思う。	理念は重要事項説明書に記載され、館内にも掲示されている。入職時の新人教育項目に菜の花の理念と、介護保険の理念である「自立支援」について指導することが定められている。管理者は、自分たちのケアを振り返らなくてはならない時にいつも理念に立ち戻って「自分の親ならどうする？」と考えることを職員に話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道路愛護デーに参加し、道端のゴミや缶拾い等をした。毎月1日、ふれあいセンターへ法話を聞きに出掛け、地域の方と交流している。近所の方の畑で、野菜の収穫を体験した。	地域とのつきあいとしては、ふれあいセンターでの毎月の法話や道路愛護デーの清掃活動、春祭りや秋祭りにこども獅子舞を見に行ったり、左義長や、小学校や保育所の運動会を見に行ったりしている。毎日食材や日用品の買い出しに、利用者と一緒近くのお魚屋や花屋、スーパーに出かけている。近くの川べりを散歩したり、ドライブに出かけている。訪問調査日にも近くのボランティアが訪れていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会在住の方に配食サービスを継続している。今後共、地域への貢献を続けたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夕なぎとの合同運推を2回実施した。1月運推の議題は非常に重要なことと考え、2月請求書発送時に、参加されなかった家族に議事録と資料を送付予定。	家族、町会長、民生委員、市役所、包括等が参加して二ヶ月に一度開催している。自己評価、新料金体系、水害訓練、消火訓練、親から学ぶ自分たちの老後対策等毎回テーマを決めて実施している。研修や訓練を通じて参加者からコメントをもらい、その意見をサービスの向上に活かしている。昨年9月、10月は他のグループホームと合同で開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH便りを七尾市担当課や市包括支援センターに持参している。毎回、運推に出席頂き、貴重な意見を頂戴している。	毎月市役所へは利用者の待機状況について報告をしている。地域包括にも空床情報を連絡して連携を図っている。入居に関することや運営上不明な点があればその都度市に連絡している。また、七尾市のグループホーム部会に参加して行政説明や、事務連絡を受けたり、市主催の研修や見学会には努めて参加している。お便り(機関誌)ができあがったときには市や包括、医療福祉関係機関に配布している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法令改訂に伴い、定期的に全職員に身体的拘束防止マニュアルを回覧し、幹部職員は3ヶ月に1回、身体的拘束等適正化委員会で拘束の是非を話し合い、身体的拘束をしなくてよいケアへの、努力を重ねている。	身体拘束廃止マニュアルには「身体拘束等の適正化に関する基本的な考え方」や「身体拘束発生時の基本的方針」が記されている。身体拘束等適正化検討委員会も年に3回開催してケアの工夫、拘束事例の有無、主治医との連絡調整等について検討している。研修も年に2回実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	全職員は、虐待がいけないことを正しく理解している。利用者は耳が遠く、職員は大きな声で話しがちだが、言葉遣いが乱暴に聞こえて、あたかも虐待のようにならないか？ 職員チェックリスト等で問いかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、両制度の利用者はいないが、職員はこのような制度があることを理解している。利用者に必要があれば、両制度利用に繋がる支援を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、当GHの料金体系・運営方針・介護への取り組み等の十分な説明を行い、必要な時は、請求書に「お知らせ」を同封したり、GH便りに記載したり等の努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年の運推会議で、代表者自ら、経営状況・運営方針等を説明し、家族の要望を聞く機会を設けている。毎月職員は、利用者希望調査を行い、実践と改善に努め、シーツ交換時には、家族にコメントを求めている。	運営推進会議に家族に参加してもらったり、事業所の行事にも参加してもらい家族との懇談の場を持っている。家族面会時には、居室で利用者の近況を伝え、家族から意見や要望をよく聴くように心がけている。苦情の体制は整備されて周知されているが特に苦情は寄せられていない。毎月シーツ交換日には家族も来てもらい利用者のシーツを職員と一緒に交換しながら話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、NPO法人菜の花グループのGH管理者会議や、全体職員会議、ミニスタッフ会議等を設けて職員の意見を聞き、運営に反映させている。	管理者は他の職員と同じシフト勤務に入っているため、いつでも職員の意見や提案を受け付けている。グループホームでの会議や毎朝のミーティングなどでも常に職員の声に耳を傾けている。代表者もよく施設を訪れている。また、毎週管理者と代表者は電話ミーティングを行うほか法人全体の管理者会議の際にも意見交換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は高く、代表者は残業しない仕事のやり方を強く指導し、定時帰宅を求めている、当GHは、ほぼ出来ている。又、代表者は本人の努力に対して正しく評価を行い、素早く賃上げを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者を含めた職員1人ひとりの力量を十分に把握している。必要に応じて資格取得研修や法人内での研修を強く奨励し、研修の便宜を図っている。職員を育てる為に、定時帰宅の徹底を強く指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はGH運営やケア内容について積極的に学び、職員に他GH見学を勧め、法人内外での研修参加を奨励し、親しくしているGHに運推等への参加を呼び掛けたり、事業者連絡会のGH部会には参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は全職員1人2声運動を実施する等して、利用者が不安に思っていることや、困っていること等に耳を傾け、信頼関係作りにも最大限努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には入居後数日間に渡り、利用者の様子を電話で知らせたり、入居者特集号を郵送したりして不安感解消に努め、利用者・家族双方が、安心出来る関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	この問いはGHの理想の姿であるが、「他のサービス利用も含めた対応」まではしていない。ただGHよりも療養型が相応しいケースや、在宅のままの方が相応しいと判断した時は、そのようにアドバイスしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	漬け物・梅干し・らっきょう漬け・水ブキ・梅酒・かぶら寿し・野菜作り等は、職員よりも利用者の方が数段ベテランのことが多く、調理や農作業はむしろ利用者へ指導を仰いでいる。そして、ギブ&テイクの良い関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居当初、帰宅願望が強かった利用者さんが落ち着かれるまで、家族には夕方の面会や外出の協力を仰ぎ、スムーズな初期対応が出来た。シーツ交換時には職員が往診結果や、日頃の暮らしぶりを家族に丁寧に伝えるしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当GHは入居前に住んでいた地域との関係継続が大切と考え、家族の協力を得て、馴染みの店や美容院等の外出支援、交友関係継続に努めている。	入居の際には家で使っていたテレビや布団などを持ってきてもらっている。趣味の編み物をしたり、お化粧をして着飾ったりこれまでと同じ生活を送れるように支援している。ドライブがてら家の近くまで出かけたり、近所の親戚の家まで職員と一緒に出掛けたり、友人や近所の人々がグループホームに遊びに来てくれる。また、外出、正月やお盆には家に帰れるように家族への働きかけもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人ひとりの生活歴や性格を把握し、得意なことを活かしながら、利用者同士が共に支え合い、関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「退居者特集号」を作り家族に送付し、定期的に転出先の施設等へのお見舞いや年賀状送付を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は1人ひとりの1日の過ごし方を把握し、その人らしく過ごせるよう支援した。意思を表現出来ない人には、ちょっとした言動や言葉を見逃さず、気持ちを推し量るよう努めている。	利用者とのコミュニケーションをとる時には、目線を合わせるため姿勢を低くしゆっくり分り易く話すことを第一に心がけている。利用者の理解のためには、良く話してもらいよく聴き、それを申し送り等で共有している。また、介護サービス計画表(介護計画)をよく読んだり、家族から家での暮らしぶりや生活歴などを聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の入居前の生活をケアプランに表記し、全職員が把握している。そして、無理に過去の生活歴を聞こうとせず、現在の姿をありのまま、受け止めようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、1人ひとりの一日のスケジュール、心身状態、有する力の把握に努めている。朝夕の申し送り時に、注意すべきことがあった時は、必ず伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の希望を伺い、職員で話し合っ て、ケアプランを立案している。また毎月ケアの 目標を定め、月末には担当職員がモニタリング を行い、翌月に反映させている。	職員全員でアセスメントを行い計画を作成 し、ミーティング時にサービス担当者会議を開 催してプランを周知している。モニタリングは毎 月実施して大きな変化があればその都度計画 を変更している。大きな変化がない場合には12 か月ごとに計画を変更している。記録は個人 別の日報と、個人別の排泄・食事・水分記録が ある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日報を見直し、より健康管理がスムーズ に出来るよう「健康管理表」を作成している。そ して、表に基づき、日々の健康状態を詳しく確 認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情に応じて医療機関の受診代行、 シーツ交換時の洗濯代行、家族に代わって理 美容店同伴、外食同伴等の柔軟なサービス提 供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	矢田町ふれあいセンターへ法話を聞きに行っ たり、地元の農協・カジマート、どんたくに買い 物に出掛け、コメダ珈琲店や七尾美術館にも 出掛けた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月1家族ずつ主治医の往診に立ち会って頂 き、診療内容や薬剤について、家族自ら説明を 受けて頂いている。又、シーツ交換時に往診結 果を家族に毎月伝えている。そして、主治医で は対応の難しい場合は、他科受診等のアドバ イスを強く行っている。	9名の利用者のかかりつけ医は2名で、両方 とも往診してくれるので、往診時に医師に最近 の様子を伝え、医師からは直接指示を受けて いる。また、24時間オンコール体制をとってく れているので熱発時にも対応してくれるため家 族、職員の安心感は大きい。内科以外の受診 は家族送迎となりその時には家族と口頭で情 報交換している。精神科受診の人は職員も同 行してより詳しく近況を医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	看護師は行政畑の出身で、主としてリハビリを 担当していて、主治医往診や薬局の居宅指導 は管理者対応とせず、常勤職員が均等に対応 している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院時は、介護記録を医療機関に送付し、必 要に応じて病棟等を訪ねている。そしてお見舞 いに伺い、又、家族と連絡を取り合い、利用者 の状態を相談したり、医療機関の相談員や当 GH主治医と連絡を取り、早期退院に努めてい る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本年度も看取りの事例はなかったが、骨粗鬆症による入院退居が1件、脳梗塞疑いで入院が1件あった。	利用者が重度化してきた場合には、事業所内で対応できることを検討するとともに、協力医療機関や協力介護保険施設等と連携して次の施設へのスムーズな移行について話し合っている。家族には特養の順番をついてもらうように話している。 現在地に移転してからは、看取りの事例は無いが利用者の状況や家族の希望など看取りの事案ができたときには、終末期の体制をとっていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は繰り返し、緊急マニュアルを基に訓練を行っていて、又、救急救命訓練を受講済だが、非常時、職員がマニュアルを基に、咄嗟の判断を加えて動けるか？と言うと、難しい。介護職員の欠点は、総合的判断力の欠如である。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	当GHでは独自の緊急マニュアルを作成し、毎月5・15・25日に緊急対応訓練を行っていて、本年度は特に「緊急時の連絡方法」についてマニュアルを作り、端的に、いち早く病状・身体状況について報告出来る訓練を行った。	「緊急時マニュアルファイル」があり、この中に「無断外出マニュアル」、「救急車対応マニュアル」、「異変の観察ポイント」、「感染予防マニュアル」などがファイルされている。マニュアルの職員への周知は、毎月5日、15日、25日にマニュアルの中からその月のテーマを決め、「緊急時・救命救急訓練チェックリスト」で、各職員への周知状況の確認を行っている。マニュアルは、年度末には見直し、それ以外は必要時に随時見直している。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関との連携は十分にあるが、連携施設の特養とは、実質的な日常交流がない。これは非常時を想定したバックアップと考えられるので、水害時は連携施設の「特養千寿苑」に避難する予定で、訓練を行った。	協力医療機関は、市内の2か所の医療機関である。入居時にどちらの医療機関を主治医にするか決めてもらっている。そのため、入居している全員が、この2か所の医療機関のどちらかを主治医としており、月1回往診に来てもらっている。また、緊急時の対応も可能で、1年を通し24時間連絡が可能である。バックアップ施設は、市内の特別養護老人ホームであり、災害時の避難施設となっており、利用者を受け入れてもらえることになっている。また、その施設で勉強会が開催される場合は、職員は参加するなど連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	以前は2ユニットだったが、矢田町移転後は1ユニットとなり、1人夜勤体制になったので、万が一の時は一刻も早く、近隣職員の応援が得られるよう、職員には常に携帯電話を持つようお願いしている。	1ユニットで1人夜勤である。夜勤者が1人だけになる時間帯は、午後7時から翌朝8時である。状態の変化があった場合は、理事長へ連絡し、指示をもらっている。この1年、夜間帯に救急車を呼んだことはないが、夜勤者1人の時に救急車を呼んだ場合は、夜勤者は管理者に入院した病院を伝え、管理者がその病院に駆けつけ、家族へ連絡することになっている。1人夜勤体制であるので、職員へは、緊急な場合の応援が必要な場合もあるので、常に携帯電話を側に置いておくように話している。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	嚴重に火災訓練を年2回実施した。本年度は通報装置付火災報知器が導入され、消防に通報しなくてよいマニュアルに改善したが、広い居間の火災では無理があることが判明し、元のマニュアルに戻すことになった。	平成30年3月20日と11月6日に消防署立ち会いで、総合訓練を実施している。3月の訓練では、運営推進会議の日に実施し、運営推進会議のメンバーも参加している。防災訓練は、訓練計画に基づき訓練を実施し、訓練後には訓練報告書が作成され、職員の防災意識を高めるよう努力している。また、9月25日の運営推進会議では、「水害避難訓練」について話し合い、実際に訓練に取り組んでいる。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	非常時にはボタン1つで、代表者・管理者・法人内関連GHIに携帯電話がつながるようにセットされているなどの、濃やかな体制が整備されている。	マニュアルの職員への周知は、毎月5日、15日、25日にマニュアルの中からその月のテーマを決め、「緊急時・救命救急訓練チェックリスト」で、各職員への周知状況の確認を行っている。また、災害について「自己チェックリスト」を年2回実施している。マニュアルの見直しは、年度末に行い、また必要時随時見直している。備蓄については、「非常時チェックリスト」や「非常用備品一覧」が作成されており、食料、水、生活用品や介護用品などが備蓄されている。備蓄品は管理者が管理し、必要な入れ替えを行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員チェックリスト(入居者対応・言葉遣い)で、職員自身が自分の心に問いかけ、利用者のプライバシー尊重に十分な配慮をしている。	パンフレットに「少人数ゆえに高齢者さんの意思や自由を尊重することができます。たとえば食事の内容も、ご本人のご希望を聞きつつ、その日の冷蔵庫の中にあるものと、お店で新鮮な材料を探しながら決めればよく、暑い日には冷や奴、寒い日にはお鍋というように一般のご家庭と同じです」と記載されており、そのように取り組んでいる。この他日々の取り組みで、利用者への声かけ、声のトーン、表情には特に気をつけている。敬語を使い、敬意を払った言葉を選び、子ども扱いはしないう心がけている。また、入浴時の脱衣の際は、他の方に見えないようにプライバシーにも配慮している。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立やお茶の種類のリクエストを求めたり、レクリエーションの選択をご本人に委ねたり、家事も利用者の得意なことをお願いしたり、外出先もご本人の希望を最大限取り入れたりの配慮をしている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人の生活のペースの尊重に努めているが、最近の利用者は、都会並みに自己主張が強くなった。職員はサービス業の観点から、利用者の自己主張を受け入れねばならない。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	高齢者施設だからを止めて、身だしなみには最大限の配慮をしている。風呂上がりにカラー・ぐるぐるドライヤーを使い、化粧・マニキュア・ハンドマッサージ等を楽しんだりしている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備・片付けは利用者と職員と一緒にやっている。そして、楽しく食事が出来るよう食卓を2グループに分け、気の合う利用者さん同士で食べて頂くことにした。1人用テーブルも購入している。	食事はテーブルを2つに分け、各テーブルに一人の職員が入って、一緒に同じ物を食べている。食べやすいように皿を動かしたり、必要な介助を行い、食べ物の話や午前中の出来事の話などして食事を楽しんでいる。また、お正月やバレンタイン、花見、母の日、誕生会などは、いつもより豪華な食事を楽しんでいる。午前中は、好みのドリンクと少量のおやつ、午後は好みのドリンクと果物で楽しむ。おやつは、白玉だんご、さつまいもを使ったおやつ、寒天を使ったおやつ、ホットケーキなど手作りおやつで楽しむこともある。外食にも出かけており、ラーメン、フードコート、ファミレスなどに月1回程度出かけて食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増加対策として、低脂肪・高たんぱくのヘルシーメニューを心掛けている。降圧剤服用者が多いので、減塩している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年に1回の歯科検診の実施・毎食後のうがいの徹底・就寝前の入れ歯洗浄の徹底を図ると同時に、1人1人の歯磨きチェックや義歯の状態等を全職員が把握出来るシートを作成した。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	家族のオムツ代軽減の為に、全職員が多くの商品が並んでいるドラッグストアに出掛けた。余りの商品の多さにビックリした。そして夏場、2人の利用者さんにリハビリパンツを布パンツに変える試みを行った。2人の内1人は成功した。	排泄チェック表があり、9人全員を対象に排泄をチェックしている。7人の方は、排泄が自立しているため、確認できる範囲でチェックしている。介助の必要な方に対して、排泄パターンを把握し、失敗を防ぐように努めている。排泄介助の際は、声かけの工夫や声の大きさ、他の人には聞こえないようになど配慮している。夏場には、2名に関しリハビリパンツから布パンツへ移行する取り組みを行った。1名は布パンツで過ごせるようになっており、自立支援にも取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維を多く取り入れ、歩行運動を継続し、腹部のマッサージを行い、起床時に冷たい牛乳・ダノンヨーグルト、バナナやセンナ茶にハチミツを入れて飲んだりしている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯に縛りはあるが、職員の負担と業務の優先順位等を総合的に判断し、入浴回数が多ければ良いという考えを捨てた。又、色々な香りの入浴剤や、菖蒲湯・柚子湯等を楽しんでいる。	月・木の10時から12時ごろ入浴を行っている。夏場には、月・木・土の3日入浴介助を行っている。その日入浴を拒否する方もいるが、その気になるように声かけを工夫し、入浴してもらっている。たまにどうしても嫌がる方には、下着交換を行い次の入浴日に入浴してもらい、無理強いはいしない。入浴の際は、3種類の入浴剤や3種類のシャンプーを選んで使っている。また、菖蒲湯や柚子湯などで季節を感じ、入浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、不眠がちの方には日中身体を動かし、足元が冷たい時は湯たんぽを使用したりして安眠確保につなげている。そして、主治医と協力しながら睡眠導入剤減薬に努めている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月、薬剤チェックリストで、現場・代表者共、不要な薬剤のチェックを行っている。又、請求書発送時、家族に薬剤情報を送付している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵手紙・読書・パズル・塗絵・おやつ教室・カラオケ・お経・踊り・ラジオ体操・歌体操・畑等、各人りに合った活動を促し、茶碗拭き・洗濯物畳み・犬のエサやり・仏壇の水替え等、役割分担も決まっています、生き生きとこなされています。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に基づき、天候と体調に相談し、散歩・お参り・ショッピング・ドライブ・りんご狩り等に頻繁に出かけているが、現在の人員配置基準では、こころ辺り限界。	ほぼ毎日食材の買物に出かけているため、利用者の方も一緒に出かけ、個人的な買い物も済ませている。スーパーやドラッグストア、魚屋、パン屋、花屋などに出かけている。気候の良い時期は、近くの川の周辺を散歩したり、よくドライブにも出かけている。りんご狩りや能登島、和倉、市内にある梅や桜の名所などに出かけている。また、近くの小学校の運動会や地域の祭の獅子舞を見に出かけたりもしている。家族と共に地元の敬老会に参加する方もいる。そして、お墓参りや絵画鑑賞、花の展覧会など、個人の希望の外出に職員が付き添っている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者2人が金銭管理をされていて、お金は買い物や神社仏閣への参拝時のお賽銭等に使われている。金銭出納帳は1ヵ月に1度、担当者・管理者が点検し、家族から確認印を頂いている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を楽しみに待つ利用者や、帰宅願望が強い時に家族との電話で気持ちが落ち着かれる利用者もいる。遠方の家族に絵手紙を送る方もいて、その絵手紙は職員が真似出来ない程素晴らしい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は障子を使用し、居間・居室窓からは七尾の山並みや矢田の在所が眺められ、心が和む。しかし庭の木々が育ち過ぎ、植木屋による強剪定が行われた。田んぼにはカモやしらさぎやキジがエサを求めて飛来し、利用者さんは楽しみにされている。	日中は、利用者の方はリビングで過ごす方がほとんどである。そのため、室温や換気には配慮している。換気は、朝8時30分頃や皆さんがお昼寝に居室に戻った頃に行っている。座席は特に決めていないが、食事の時は自分たちで座る場所を決めている。それ以外は、リビングで自由にやりたいことをやっている。また、リビングにはソファを置いてあり、そのソファを動かすと1つのテーブルを全員で囲むことができ、皆でお茶などしてくつろいでいる。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い居間の所々にソファやベンチを配置し、気の合った利用者同士で思い思いに過ごされている。相性の合わない利用者さん同士もいるが、居間が広いので、逃げ場を用意してある。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品・馴染みの品を、家族に持参して頂いているが、これ以上の協力は難しいので、最近では自室に小さな観葉植物やお花を置いたり、絵手紙や俳句等を飾り、花の季節に本人の写真を撮り、額装して飾っている。	月1回フラワーアレンジメントを行っており、その作品を居室に飾ったりもしている。居室の掃除は、元気な方も多いので、出来ることはやってもらい、できないことを本人に声かけしながら掃除している。月1回、居室清掃の日を設けてあり、この日に徹底的に掃除及び整理整頓をしている。職員は、居室に入る際は、本人と一緒に入るか、本人の了解を取って入っている。また、居室で快適に過ごせるように、室温管理や換気を行い、転倒の危険のある方には、動線を確保できるよう荷物の配置にも配慮している。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体が緑と調和するようになっていて、畳を使用しているので、気持ちや和らぎ、トイレは「便所」と分かり易く表示している。全館バリアフリーになっており、また足腰の悪い人に配慮して、所々に手すりやソファやベンチがある。		